

WBGT値の把握方法、WBGT値の低減対策
WBGTによる休憩時間の延長

事例

熱中症予防 現場ルール

- ・朝礼にて安全当番が当日の天気予報による気温上昇での熱中症予防について周知し、気温上昇が見込まれる場合朝礼後ドリンク、アイススラシーを配布し、作業開始前後に十分な水分をとるよう指示する。

- ・午前10時にWBGTを計測し、
28℃以上の場合は1時間に10分の休憩
31℃以上の場合は昼休みを2時間とるよう職長会チームスに連絡し、実施させる。

概要

区分

土木

職種

全種

午前10時時点でのWBGT値により、休憩時間の延長をするルールを決めて、それを必ず実行する。

効果

真夏はほぼ、休憩時間2時間となり、休憩をしっかりとることにより熱中症を防止できる